白鳥だより

発　行　日本白鳥の会
責任者　藤巻　裕蔵
事務局　浜頓別町クッチャロ湖水鳥観察館内
電話　01634（2）2534

平成二十三年度
第36回　日本白鳥の会研修会

『島根県出雲市宍道湖大会』開催される

研修会発表会場風景

平成23年度第36回日本白鳥の会研修会島根県出雲市宍道湖大会が、去る1月28日～29日の日程で、出雲市の宍道湖グリーンパーク内のホシザキ野生生物研究所を会場に開催されました。

会場となった野生生物研究所は、財団法人ホシザキグリーン財団が設立運営しているもので、研究所は、宍道湖のほとりにあり、野鳥観察棟もあり、そこからは、備え付けのプロミナーや双眼鏡で宍道湖やその周辺に生息する小鳥やハクチョウ等が手に取るように間近に見ることが出来たり、昆虫や小鳥などのクイズ・ぬいぐるみなども備え付けられ、楽しみながら自然に触れることが出来るという施設でもありました。

第一日目は、役員会に引き続き研修会が行われ、日本各地から参加した会員による研究発表と参加者による活発な質疑応答が行われました。

今回の研修会で発表された内容は次の通りです。

①クッチャロ湖の白鳥給餌　小西　敢（北海道）
②浜頓別町ジュニアガイドの活動　小西　愛海（北海道）
③ハクチョウの生態を追う vol.5 ～この2年間の新しい観察と疑問～　角田　分（山形県）
④長野県安曇野・諏訪湖に越冬している白鳥たちの近況報告　会田　仁（長野県）
⑤定時定点調査のデータベース化　神山　和夫（東京都）
⑥「米子水鳥公園での鳥インフルエンザ発生対応」
「コハクチョウの個体群動態の推計」　神谷　要（鳥取県）
⑦白鳥の採食場（冬季湛水水田）と採食分布調査からみたコハクチョウ　森　茂見（島根県）
⑧「ハクチョウのハジラミ」　望月　明義（長野県）

今回の研究発表には、本会の研究発表では最年少となる小西愛海さん（本会事務局長の小西敢氏のお嬢さん）の発表や研究発表についての質問や意見等もあり、充実した研修会となりました。

親交を深めた懇親会

研修会終了後は、宿舎である湯の川温泉『松園』へ会場を移動して懇親会を開催しました。

懇親会へは、地元の日本野鳥の会の方からの差し入れのお酒もあり、老若男女和気藹々に親交を深めることが出来ました。

また、本会の会誌日本の白鳥35号に『白鳥追跡大作戦』の研究発表をしてくれた埼玉県深谷市の中学生並木達郎君もご両親と一緒に参加してくださって、会員のみなさんと楽しく歓談をしてくれました。

湯の川温泉は、日本三大美人のお湯ともいわれる程の名湯で、次の日の総会には全員美男美女で出席したことは申すまでもありません。

※右の写真は、今回の研修会場からすぐ近くの鳥取県安来市の能義平野の冬水田んぼです。ここでは二千羽もの白鳥をカウントすることができました。

編集人

今回、「口は災いの元」で白鳥の会の会報と会誌の編集を二年間引き受けることになってしまった。

その発端は、本会の会長である藤巻先生にこの編集を一手に引き受けさせてるのはおかしいと常々言って来た報いでもあろう。

確かに同好会的な状態で発会してきた会ではあるが、もうそろそろ、もっと機能した日本白鳥の会にしていくべきではないだろうかと考えているのだ。

言い出しっぺが損をするところもある社会でもあるが、日本白鳥の会でもその傾向が強いように思う。会の運営を人に任せて、自分は岡目八目を決め込むようでは、会の発展は望めないようにも思う。人のために、いや自分の入っている日本白鳥の会をもっと良くするために手を上げ、口を出していきたいものだ。

二年後編集を引き受けてくれる人を待っているぞー

24・25年度の新役員決まる

研修会に引き続いての一月二十九日、前日の研修会と同じホシザキ野生生物研究所で第四十回日本白鳥の会総会が開催されました。

総会では、藤巻会長の挨拶の後、恒例に従い総会開催地担当の神谷理事を議長に選出して会議が進められました。

第４０回総会風景

まず最初に平成二十二年度の収支決算報告・二十三年度収支中間報告それに二十三年度事業報告がなされ、その後議事に入り、二十四年度の暫定予算案と同年度の事業計画の提案がなされ、原案通り承認されました。

その後、二十四・五年度の役員改選が行われ、会長には藤巻氏が再選され、副会長には、阿部学氏（再選）と谷岡隆氏（新任）会田仁（まさし）氏（新任）が、選出されました。

新任の二氏が挨拶を行い、会場から激励の大きな拍手が送られていました。

新副会長　谷岡隆氏

新副会長　会田仁氏

新副会長の選出とともにこれまで長い間本会の副会長として本会の運営にご尽力下さいました古川博副会長と本田清副会長は、これからも本会の発展のためにご指導いただきたいということで藤巻会長から名誉会員に推挙され、全会一致で承認されました。

その後理事の選出に入り、後述の通りに選出されました。今回の理事の選出では、新たに佐久間拓城氏（福島県）・花岡幸一氏（長野県）吉岡美佐子氏（滋賀県）の三名が選任されました。

なお女性理事の誕生は二人目のことだそうです。

新理事　佐久間拓城氏

新理事　花岡幸一氏

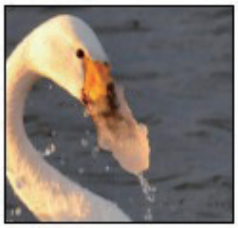
新理事　吉岡美佐子氏

選出された新役員名簿

会長　藤巻裕蔵（北海道）

副会長　阿部學（東京）
同　谷岡隆（北海道）
同　会田　仁（長野）
理事　小西敢（北海道）阿部誠一・斉藤正宏（青森）堺　博（宮城）角田分（山形）鬼多見賢・八木博・佐久間拓城（福島）菊池昶史（茨城）松本勝彦（埼玉）花穂三千人（千葉）荒尾稔・荻原政彦（東京都）花岡幸一（長野）堀川大輔・本間一人（新潟）川口雅登（石川）肥田嘉昭・吉岡美佐子（滋賀）神谷要（鳥取）
監事　芳賀孝行・山崎安紀（北海道）
顧問　望月明義（長野）
名誉会員　更科智司・宮腰武夫・山内昇（北海道）古川博（青森）本田清（新潟）八田知昭（滋賀）

※なお、監事に選出された芳賀孝行氏は、総会で選出されましたが、総会に出席していなかったために総会後本人の了解を得て監事に選任されました。


クチバシが凍りついたよ

次期開催地は滋賀県に決定

総会において次期総会研修会の開催地が検討され、平成二十四年度は滋賀県に決定し開催県の理事に選出された吉岡新理事から「これから地元に帰って相談致しますのでみなさん大勢のお出でをお待ちしております」との挨拶がありました。

現段階では平成25年1月19～20日を開催予定としていますが、正式に決定後、事務局より会員全員に案内を差し上げますので、一応予定に入れておいて下さい。

また、平成二十五年度の白鳥の会総会と研修会は、長野県安曇野の『アルプス白鳥の会』が創立三十周年を迎えることもあり是非長野県で開催させていただきたいとの申し出もあり、滋賀県の次には、長野県で開催することがほぼ決定しております。

その後の開催地はまだ決定をしていないこともあり、開催を希望する県の立候補を事務局まで。

会則の改定について

総会での三番目の検討は、角田理事より提案のあった会則の改定について話し合われました。

その結果、提案のあった会則を基に三役で話し合い、次回の滋賀大会で成案を提案するということで了解を得ました。会則の改定については、広く会員の意見を伺い、それも含めた形でより良い白鳥の会の基となる会則を提案していただくことになりましたので、会員の皆様のご意見を是非ともメールや手紙などで事務局までヨロシクお願い致します。。

議事も終了してその他の事項の検討に入り次の三点について話し合い提案通り了解されました。

韓国との交流について

白鳥の生態の研究について近隣の状況も理解しながら研究を進めていこうということで、韓国へ会員が出かける時や韓国の研究者との交流等に若干の補助金を拠出して交流を進めていく。

福島原発周辺の白鳥生態調査について

原発事故に伴って福島県内に飛来する白鳥類の現状を知ると共に適切な保護対策が行われるように、環境省に対して具体的な陳情書を早急に作成し提出することになりました。

会誌の編集について

今回編集者の交代に伴い編集についての具体的なことを会員全員に知らせて、よりスムーズでさらに興味を持って読まれる編集が行えるようにすることになりました。

具体的には、**会報に添付されている要項に基づいて行うことになりましたので、熟読の上ご協力下さいますようお願い申し上げます。**

現地研修視察

総会終了後、参加者が楽しみに待っている現地研修視察が行われました。

今回は貸し切りバスをチャーターして、斐伊川河口と湯の内の二ヶ所で現地研修を行うことができました。

出雲空港周辺での白鳥観察

松江市湯の内の冬水田んぼでの白鳥観察

島根県の会員で、今回の準備を引き受けて下さった。ホシザキグリーン財団の森茂見氏の解説で、初めにコハクチョウのネグラとなっている斐伊川右岸の河口へ向いました。

河口付近は砂州がいくつもあり、そこでネグラをとっているとの話でしたが、あいにく時間が遅かった事もあり白鳥達は採餌に出かけていました。

しかし、ミサゴやズグロカモメ、周辺の田んぼでは、多くのマガンの姿やタゲリを見る事ができました。

次に向った、出雲空港付近の田んぼでは、約20羽のコハクチョウが、二番穂を食べている姿を観察できました。その後、出雲市から、宍道湖の北岸を通り松江市の湯の内へ向い、冬季灌水水田（冬水田んぼ）に集まっている約200羽のコハクチョウを観察しました。

森さんの宍道湖の環境や出雲の伝説などのお話も聞け日本最西端で越冬している白鳥の観察もでき、大変楽しい現地研修観察会でした。（小西）

写真特集 総会・研修会こんな様子で

研究所の前庭

挨拶する藤巻会長

研究所のバードウオッチングブース

小学生で発表する　小西愛海さん

総会で、提案説明する小西事務局長

研究発表会と会場の様子

曳伊川右岸の水田で採餌するガン類

編集後記

会員全員に配付される白鳥だよりお読みになっていただいて如何でしたでしょうか。何と五年ぶりの発行になりました。

今年は、いつもの年とは違って大変な大雪で、多くのハクチョウが採餌出来る場所を求めて南下したり、積雪の少ない関東地方まで飛来するなどの状況が見られましたが、やはり三月の中旬頃からハクチョウの北帰の様子が見られるようになりました。みなさんも一安心しているところではないでしょうか。

みなさんの投稿をいただきながらより楽しく読める白鳥だよりを次号も発行できればと思っています。**ヨロシクー**

編集係　酒田市本稲通伝54の2　角田（分室）